

IV

海外学生派遣(年次報告(平成28年度後期・29年度前期))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊井, 浩子, 松田, 紀子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024880

IV. 海外学生派遣

熊井 浩子／松田 紀子 他

国際交流センターでは、在校生の海外留学を推進するため、『静岡大学からの海外留学』（海外留学に関するガイドブック）を作成・配布するとともに、25年度から4月の新入生ガイダンスの際にセンターニュース及び「静大からの海外留学」（海外留学パンフレット）を配布している。併せて、過去の留学プログラムやイベント等の参加者のメーリングリストやHP・電子掲示板等での募集情報やイベントの紹介等も行っている。

派遣に関する主なイベントとしては、例年通り海外留学フェア（留学説明会）、夏季短期留学説明会やTOEFL説明会・勉強会などを開催し、留学についての情報提供や語学学習のサポートを行っている。さらに、国際交流課（静岡キャンパス・共通教育A棟4階）及び国際交流センター資料室（浜松キャンパス・合同棟1号館3階）に、各国別の最新の資料を提供する棚を設置し、派遣留学やTOEFLに関する情報提供を行った。これは留学希望者への情報提供に加え、留学経験者自身が留学を振り返り、その成果と新たな目標を確認する貴重な機会となっている。

交換留学に関しては留学前指導にアカデミックイングリッシュ（全2回）を実施したほか、TOEFL団体受験を年4回にするなど、英語力の面でのサポートや危機管理に関する情報提供も強化した。また、派遣予定先の協定校関係者が来訪した際は、留学予定者との懇談会を開催し、ネットワークづくりのサポートや情報提供を行った。

25年度後期から実施している春季短期留学（イギリス・中国）は4回目を迎え、このうちイギリスに関しては、26年度に本学の単位を認定できるよう、カリキュラムを整備したほか、良い宿泊先の確保のため28年度は派遣先を変更した。中国については、派遣希望者が集まらず、28年度は実施されなかった。27年度に開始したフランスの夏季・春季短期留学プログラムは、1名から参加が可能、引率不用という形で、継続して募集・開催している（28年度春季に1名参加）。また、本学の単位を認定できるよう整備を進めている。

26年度に静岡大学が日本エマージェンシーアシスタンス株式会社によるOSSMAの会員となり、26年度後期以降国際交流センターの留学プログラムで留学する場合は、この個人会員となることを義務づけている。海外安全に対する情報提供の必要性に鑑み、平成29年度に国際交流センターHP上に、「海外渡航前の手続き」ページを開設し、学生向けに「留学の準備・手続きリスト」、教職員向けに「海外での安全と危機管理」をPDFファイルで掲載し、各学生、教職員が活用できるようにした。掲示物では、OSSMA加入を呼びかけるポスターを作成、配布した。また、これまでセンター派遣の学生を対象としていた危機管理ガイダンスを全学の教職員に対象を広げて実施するなど、安全な海外派遣のための活動を強化している。併せて、留年せずに留学を経験した事例収集など、留学しやすい環境整備という観点からの調査も行った。

主な派遣プログラム及び活動は以下の通りである。

1. 大学間協定に基づく交換留学

平成29年度には以下の11か国、14大学に27名の学生が大学間協定に基づく交換留学生として選考され、29年3月及び8月～10月に留学を開始している。括弧内は、当該学生の所属学部を表す。このうち、チェコのマサリク大学留学には、8月にマサリク大学からEUのモビリティープログラムであるエラスムスプラスによる支援の提案があり、派遣学生2名に適用した形となっている。

29年度交換留学派遣者数は例年通りであるが、昨年度復活した韓国の協定校への派遣が維持されたこと、工学部を中心とした理系学生の派遣が増えていること、2期続いたインドネシアのガジャマダ大学に替り、今年度は初めてタイのタマサートン大学への派遣者が出たことなどが特徴である。その一方で、カナダ・アルバータ大学については、TOEFLのスコアの関係で、派遣者を出すことができないという残念な結果となった。

- アメリカ ネブラスカ大学オマハ校 2名（人文学部・工学部各1名）
- チェコ マサリク大学 2名（人文社会科学部）
- スロバキア コメニウス大学 4名（教育学部各3名・情報学部1名）
- ブルガリア ソフィア大学 1名（教育学部1名）
- ポーランド ワルシャワ工科大学 1名（工学部）
- ドイツ ブラウンシュバイク工科大学 3名（農学部1名・工学部2名）
- ヴッパータール大学 4名（人文社会科学部・教育学部・情報学部・総合科学技術研究科各1名）
- イエナ応用科学大学 1名（総合科学技術研究科）
- フランス ロレーヌ大学 1名（人文社会科学部）
- ラトビア リガ工科大学 2名（工学部）
- タイ タマサート大学 1名（人文社会科学部）
- 中国 浙江大学 1名（人文社会科学部）
- 韓国 慶北大学校 3名（人文社会科学部2名、教育学部1名）
- 朝鮮大学校 1名（情報学部）

交換留学に関しては、選考後には派遣前に全3回の留学前ガイダンスを実施し、留学前の準備や危機管理等に関する講義、留学経験者や協定校からの留学生も招いたディスカッション等を行うことにより、学生自身が主体的に準備に取り組めるような機会を提供しているほか、OSSMAによる危機管理ガイダンスも実施した。

また、平成26年度からは報告書に加え、留学前から留学後のキャリア形成も視野に入れた留学ポートフォリオ作成を義務づけるなど、留学を次のステップに結びつけるための指導を行っている。

2. ILUNO (Intensive Language Program at the University of Nebraska at Omaha: ネブラスカ大学オマハ校集中語学プログラム)

平成29年度アメリカ・ネブラスカ大学オマハ校における集中語学プログラムにILUNO

に9名（人文社会科学部4名、教育学部3名、工学部1名、理学部1名）が参加した。そのうち、8名は協定に基づく96週分の授業料免除枠での参加である。なお、2月21日に渡航前ガイダンスを実施した。

また、平成30年度募集に先立ち、7月13日にはILUNO説明会を実施し、情報提供に努めた。

3. 平成28年度春季短期留学

国際交流センターでは、提供する短期の語学留学プログラムの選択肢を広げ（渡航先、設定期間）、既存の短期留学プログラムと運営面、内容面で異なる形式のプログラムを提供することを意図して、平成25年度より、春休みにイギリス・中国での短期留学を開始した。加えて27年度より、フランスの夏季・春季短期留学プログラムを開始した。各プログラムの概要は以下のとおりである。

① イギリス、グロスタシャー大学INTO短期語学研修

A) 実施概要

期 間：平成29年2月19日(日)～3月21日(火)、4週間

研修機関：イギリス グロスタシャー大学INTO (University of Gloucestershire, INTO, UK)

費 用：460,897円

参加者数：11名（人文社会学部4名、教育学部1名、情報学部1名、工学部2名、理学部3名）

渡航前ガイダンス（3回）：12月8日、1月12日、2月9日

英語コース：

グロスタシャー大学 INTOのGeneral English Intensiveコース。全授業時間は80時間（20時間×4週間）。コース開始時にプレイメントテスト（筆記、口頭）を受け、レベル別にクラスに配置される。

B) プログラムの実施状況

平成28年度は研修先を変更し、より良い学生の受入体制を持ち語学センターの手配によるホームステイを利用することができる、グロスタシャー大学INTOとした。同大学は、ロンドンから車で2時間ほどのチェルトナムという街に位置している。

C) 成果と課題

終了後に参加者を対象にしたアンケートでは「プログラム全体」、「英語の授業」、「学校（グロスタシャー大学INTO）の環境」、「放課後、週末の活動（自主）」の各項目で全員が「満足」、もしくは「どちらかといえば満足」と答えた。「ホームステイ」については、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満」と回答したものが各1名いた。参加者の満足度は全般的に前年度よりも明らかに高かったため、研修先を変更したことは良い結果を生んだといえるだろう。留学の成果を聞いた質問では、「英語を勉強するモチベーションがあがった」に7名、「海外の人たちとの交流に前向きになった」に7名が「あてはまる」と答え、「どちらかといえばあてはまる」と回答した者と合わせると、いずれの項目にも成果を感じている学生が大多数であった。

平成28年度は、引率者が渡航時と最初の2日間のみ同行したが、次年度は引率者をつけずに派遣することを検討している。受け入れ先のグロスタチャー大学INTOは、日本も含む世界中の教育機関から学生を引率なしで受け入れており、ホストファミリーとの連携も良く、受け入れ体制は整っている。来年度に向けて、安全講習、危機管理対策を検討し、引率者なしの派遣プログラムを実施するための準備を進める。

② 中国 北京華文学院短期語学留学

平成28年度は応募者が集まらなかったため実施せず。

③ フランスH28年度春季（H28年度夏季は応募なし）

A) 実施概要

期 間：平成29年2月25日(土)～3月26日(日)（30日間）

研修機関：フランス グルノーブル大学附属フランス語教育センター（le CUEF de Grenoble）

費 用：約50万円

プログラム費用（受け入れ先語学学校の登録料・授業料、フランス滞在中の健康保険料、宿泊費、文化アクティビティ参加費、グループ単位での空港送迎費）として、2100ユーロ（大学寮個室）あるいはホームステイ（朝・夕食込み）2500ユーロ。これに、各自手配の日本国内移動および日本・フランス往復旅費が加わる。

参加者数：1名（人文社会科学部）

プログラム内容：

- ①フランス語短期集中講座：受講生は、個別面接を含むクラス分けテストを受け、個別カルテが作成されるとともに、それぞれのレベルに合ったクラスに配置される。月曜から金曜まで、受講時間数は週25時間、4週間での総受講時間数は100時間。フランスの文化や文明をも学べるよう、授業では、広告、メディアの記事、ビデオ、文学作品など、実際の資料を用い、多様な言語活用シーンを想定して、コミュニケーションを重視したアプローチをとっている。到達レベルを記した証明書を、プログラム終了時に発行。
- ②文化・スポーツアクティビティ：一日または半日のさまざまなアクティビティや社会見学などを企画。

B) 短期語学留学の新設の狙いと成果、課題

本プログラム新設の狙いは、研修機関として質の高い機関への短期学生派遣を、学内の運営コストを抑えながら実施することで、短期の語学留学プログラムの選択肢を広げることにある。

平成27年度夏季から開始したこのプログラムは、フランスの公式機関である「フランス政府留学局Campus France」パリ本局が提供するもので、開設されると同時に本学でも募集を開始したが、派遣先の大学付属語学学校が、政府公認の品質Label « Qualité FLE »の認定を受けており、教育と設備の質の高さが認められている点で研修機関として信用できるとともに、フランスの大学を体験できるという魅力がある。また、プログラムへの申込み手続きは、学生個人ではなく大学がCampus Franceとの間で行うことから、大学として

学生の海外渡航が把握できるとともに、学生においては、リヨン空港に到着・出発時の、グループ単位での「送迎」サービスが含まれているため、初めての海外留学を経験する場合であっても、大学教職員等の引率なく学生個人で研修先に出かけることができるメリットがある。よって、学生が安心感を持って留学に応募できるとともに、引率不要により学内の運営コストを抑えながら短期留学先の拡大を実現した。

これまでの本学の参加学生は、プログラムが提供されているサンティエヌ、グルノーブル2か所でのプログラムを経験している。参加学生からの感想では、留学の成果が実感されている一方で、プログラムが大学の単位として認定されることに強い期待があり、目下整備を進めている。これにより、さらに多くの学生が参加することも期待できる。

4. 夏季短期留学

8月8日から3週間、アメリカ・ネブラスカ大学オマハ校（参加者11名）、カナダ・アルバータ大学（参加者18名）、韓国・朝鮮大学校（参加者6名）の3つの夏季短期留学が実施された。ネブラスカ大学については、昨年度よりネブラスカ大学での研修のあとにカリフォルニアでの研修を追加したが、今年度は学生の希望もあって、ニューヨークで2泊の研修を行い、より魅力的なプログラムを目指した。

参加者を対象に5月25日、6月15日及び7月6日に3回の説明会を実施した。説明会では、スケジュールや手続き・準備等の説明及び留学経験者からのアドバイスや海外安全のための知識等についてのガイダンスを行った。また、7月20日には静岡キャンパスで結団式が行われた。

夏季短期留学参加者は語学研修や文化体験、ホームステイ、旅行など盛りだくさんのプログラムを満喫して無事帰国した。

なお、ネブラスカ大学及びアルバータ大学の夏季短期留学については、全学教育科目の英語科目「英語海外研修A」「英語海外研修B」（2単位）として単位化され、24年度以降入学者はこの科目を取得することができた。ネブラスカ大学・アルバータ大学参加者のうちの23年度以前の入学者および韓国サマースクール参加者については、従来どおり各自の申請にもとづき、全学教育科目の英語科目・韓国語科目（2単位）を認定した。

英語海外演習については、現地での英語の成績に留学前の目標やその成果及び新たな目標等を含む報告書によって成績を決定した。その報告書の一部はセンターホームページに公開されている。

夏季短参加者には帰国後、留学生支援ボランティアや留学プログラム、ABP副専攻などの情報提供を行った結果、それぞれに複数の参加者が参加しており、今年度も多くの学生が留学の成果を活かして次のステップに進んでいる。

5. 協定校の短期研修プログラム：

当該期間に下記の協定校短期プログラムの募集があり広報したが、本学の参加学生はなかった。

○キンモンクット工科大学トンブリ校短期派遣（2017年6月17日～8月19日）

○チェコ・マサリク大学サマースクール

「World in Transition and Central European Transformation」(2017年6月18日－7月9日)

「Joint Masaryk - Haifa University summer school on challenge of being a minority in Central Europe and Israel」(2017年6月4日－7月7日)

「International Relations and Threats to Global Security」(2017年7月2日－7月23日)

「Central Europe - A Birthplace of Modernity」(2017年7月2日－7月21日)

「Summer Lab Research Internships at Masaryk University」(未定)

○韓国・釜山大学校サマースクール(2017年6月19日～7月20日)

○韓国・慶北大学校サマースクール(2017年8月7日～8月18日)

○ラトビア・リガ工科大学サマースクール(2017年8月20日～8月31日)

○ドイツ・ブラウンシュバイク工科大学ドイツ語サマーコース(2017年9月1日～9月30日)

6. VSCP (Visiting Students Certificate Program) 説明会実施

カナダ・アルバータ大学で行われている語学研修と専門科目の単位取得を組み合わせたプログラムであるVSCPの説明会がアルバータ大学Gretchen Phillips氏を迎えて平成28年12月1日に開催された。

28年度前期派遣留学生は9名(28年5月開始3名、9月開始5名、1月開始1名)である。

7. トビタテ留学JAPAN

静岡大学ではこのプログラムに採択されて29年度前期までに留学を開始した学生は計7名となっている。27年度からこのプログラムの説明会を開催しているが、28年度からは留学経験者が中心となって広報や説明会を開催するなど、大学の中でもトビタテのコミュニティーが着実に広がっていることがうかがわれる。

また、国際交流センターでも応募時やプレゼンテーション前等のサポートにも力を入れている。

期	コース	滞 在 先	期間(か月)	所 属 学 部
2	新興国	中国	10	人文社会科学部
2	多様性	ニュージーランド	12	教育学部
4	多様性	フィリピン・タンザニア・オランダ	7	教育学部
4	多様性	ドイツ	12	人文社会科学部
4	多様性	アメリカ	6	人文社会科学部
5	理 系	ドイツ	12	工学部
6	新興国	グアテマラ・パラグアイ・アルゼンチン	12	人文社会科学部

8. 海外留学フェア

平成28年度後期は10月13日(木)に静岡キャンパス、10月20日(木)に浜松キャンパスで、29年度前期は4月20日(木)に浜松キャンパス、4月27日(木)に静岡キャンパスで実施した。前後期ともに第1部では全体的な説明及び留学経験者によるパネルディスカッションを行い、第2部ではプログラム・協定校ごとにブースを開設し、留学生を交えて個別相談を行った。参加者は28年度後期静岡キャンパス33名、浜松キャンパスは24名、29年度前期は、静岡キャンパス61名、浜松キャンパスでは39名と、浜松キャンパスの出席者が増加傾向にある。

ただ、これまでこの留学フェアも含め、国際交流センター関連のイベントは授業の少ない木曜日の午後に開催していたが、就職や教職関係の説明会等の他のイベントと重なることも多く、静岡では出席者が減少傾向にある。学生の声を聞くと、土日はさらに忙しいということで、開催日時の選択が課題となっている。

9. TOEFL 説明会及びTOEFL 勉強会・TOEFL ITP (団体受験)

海外派遣の推進を目的として、TOEFLの試験情報の提供及び学内受験体制の整備に努めている。平成28年度は、年4回のITP (TOEFL 団体受験)の実施日程を定め、学内に周知をし、各学生が留学予定に合わせて計画的にITP受験をすることができるようにした。また、TOEFL対策を取り入れた英語科目を担当する部局の教員の協力を得て、受験者を増やすことができた。その他、TOEFL受験奨励のため、大学教育センター英語教員によるTOEFL勉強会を行った。

- ITP TOEFL 学内実施

第1回：2017年5月25日(木)、第2回：2017年7月27日(木)

第3回：2017年11月9日(木)、第4回：2018年1月18日(木)

- TOEFL 勉強会

2017年6月28日(木) 12：45 - 14：15

10. 危機管理説明会

平成29年度交換留学生のための第3回派遣前ガイダンスが6月22日に開催された。このガイダンスは、前述の通り今年度から全学の教職員・学生のための危機管理ガイダンスも兼ねて実施された。当日は国際交流センター教員から海外留学に向けて注意・準備することについてのガイダンスがあり、その後、危機管理オリエンテーションとしてOSSMA (留学生危機管理サービス)の担当者から危機管理に関する説明があった。参加者による活発な質疑応答もあり、関心の高さがうかがわれた。